

診療情報および検体（試料）を利用した臨床研究について

虎の門病院病理診断科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録や検体（試料）をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分やご家族等の診療情報・検体（試料）を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2015 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで、虎の門病院にて肺癌と診断された 20 歳以上の方。

【研究課題名】

肺癌の新規治療開発における免疫組織学的検討

【研究の目的・背景】

《目的》

肺癌治療開発において、タンパク質発現をみる免疫組織学的検討を行いたい。

《研究に至る背景》

肺癌治療は、分子標的薬や免疫チェックポイント療法により治療の選択肢が広がっています。それらの治療において、ALK 阻害剤は ALK の免疫染色が、ニボルマブやペムブロリズマブなどの免疫チェックポイント療法においては PD-L1 の免疫染色が、それぞれ治療効果を予測するための有用であるとされています。今後の新規治療開発の為に、病理診断が終了した余剰検体を用いて Claudin 18.2 や γ -グルタミルトランスぺプチダーゼなどの免疫染色を含めた検討を行い、治療薬開発につなげてゆきたい。

【研究期間】

2024 年 7 月 1 8 日 ～ 2029 年 3 月 31 日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報・検体（試料）】

診療情報：上記の症例について、年齢、性別、喫煙歴、治療への反応、転帰(生存、死亡)、病理診断結果ならびに病理検体を用いて提出された遺伝子検査結果など。

検体（試料）：診断の終了した病理検体。

【研究代表者】

虎の門病院 病理診断科 高澤 豊

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：病理診断科 高澤

研究機関の長：院長 門脇 孝

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報・検体（試料）が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2024年10月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 病理診断科 宇留賀 公紀

電話 03-3588-1111(代表)